ひろしま八区ぐるっと散策「みち」めぐり

三田往来　古代山陽道　西国街道　出雲石見街道　都志見往来

ひろしまの歴史再発見!!

歩けば歴史が見えてくる

三田往来（三篠川舟運）

古代には高田郡三田郷（現在の白木町域）から安芸国府へ往来があり、安芸高田市の吉田郡山（俗に吉田道）と三次支藩（俗に三次往来・中郡道）への連絡道として、中世以来数多くの武家が駆け抜けました。尾長の大内越峠より中山・温品・馬木・福田・小河原・深川・狩留家を通り、白木町三田地区から井原市に至ります。江戸時代には狩留家からは、賀茂・豊田の各郡の年貢米が繰り出され、三田船＝三篠川舟運により広島城下に運ばれ、内陸地域への重要な交通路ともなっていました。

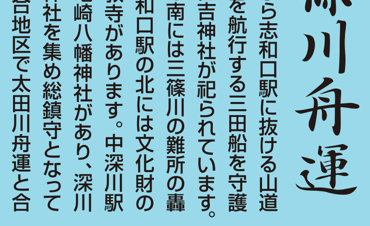
旧市場町を物語る井原市

井原市

江戸時代から井原には市が立ち、高田郡内でも有数な市場集落でした。近郊の村々からは物資が集い、井原相場が立つなど栄えました。みちが曲げられた街道には蔵が建ち並び、古い町並みが現存しています。近くには神ノ倉山や中世井原氏の居城鍋谷城跡などがあります。

三篠川舟運

上三田駅から志和口駅に抜ける山道に、三篠川を航行する三田船を守護するため住吉神社が祀られています。上三田駅の南には三篠川の難所の轟の瀬が、志和口駅の北には文化財の宝庫の順教寺があります。中深川駅の西には亀崎八幡神社があり、深川郷各村の神社を集め総鎮守となっています。落合地区で太田川舟運と合流し、広島城下まで繋がりました。



三篠川最大の難所・轟の瀬

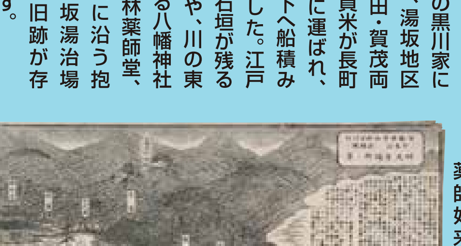
狩留家宿

江戸時代には三篠川舟運（三田船）の中継地として、また広島藩の蔵入地として宿駅が置かれました。本陣は割庄屋の黒川家に置かれ、湯坂地区から豊田・賀茂両郡の年貢米が長町の米蔵に運ばれ、広島城下へ船積みされました。江戸時代の石垣が残る順正寺や、川の東西にある八幡神社や志和林薬師堂、三篠川に沿う抱岩や湯坂湯治場跡など旧跡が存在します。

割庄屋の黒川家は本陣跡

明光寺薬師堂

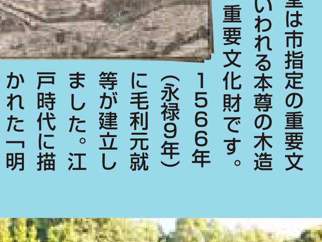
中深川の明光寺薬師堂は市指定の重要文化財、弘法大師作ともいわれる本尊の木造薬師如来坐像は県の重要文化財です。1566年（永禄9年）に毛利元就等が建立しました。江戸時代に描かれた「明光寺境内ノ景」があります。



古絵図には川船が描かれています。（明光寺蔵）

温品〜小河原へ

尾長の大内越峠から温品に入り、清水谷神社前の清水の池で一休み。馬木の馬木八幡神社の社叢を横目に、福田の北に弥生時代の銅鐸・銅剣等が出土した木の宗山遺跡があります。



旅人がのどを潤した清水谷神社

指南 散策

各区で制作した散策ガイドマップには、歴史街道の一部が含まれています。

- 安佐南区　「あさみなみ散策マップ〜東野・川内ルート」（安佐南区役所地域起こし推進課TEL082-831-4926）
- 安佐北区　「中郡古道散策地図（全5部）」（安佐北区役所地域起こし推進課TEL082-819-3905）／活動団体:てくてく中郡古道プロジェクトなど

都志見往来（岡岷山絵巻）

広島藩士で名絵師であった岡岷山（おかみんざん）は、1797年（寛政9年）に芸北山県郡都志見（現北広島町都志見）にある名瀑の駒ヶ瀧を見物する旅に出ました。彼は道中記として『都志見往来日記』をしたため史跡や風物に独自の解釈を著しました。さらに当時の各地の風景を『都志見往来諸勝図』に描いています。往路は佐伯区の八幡川沿いを溯り、帰路は太田川を下り可部宿に至るルートを行脚しています。

「多田村温泉図」　温泉大名神社と宿屋が数件描かれています。現在の湯来温泉東の打尾谷川沿いの光景です。

「水内図（一部）」　水内川の北側には湯ノ山明神と湯治場があり、宿屋も軒を並べていました。

「八幡川図」　川船の浮かぶ八幡川。遠くに極楽寺山を望み、橋から西へは西国街道が延びています。

「駒ケ瀧図」　画聖岡岷山の旅の目的は、名勝のこの滝を殊細かく描くことでした。

「野風吹（のかずき）図」　帰路は太田川の中流の瀬と淵を、川船で下りゆったりと船旅を楽しみました。

「河戸やな図」　可部の河戸には太田川特産の川鮎のやな場があり、岷山の通過時はやな漁の最盛期でした。

『都志見往来諸勝図』より　広島市立中央図書館浅野文庫蔵

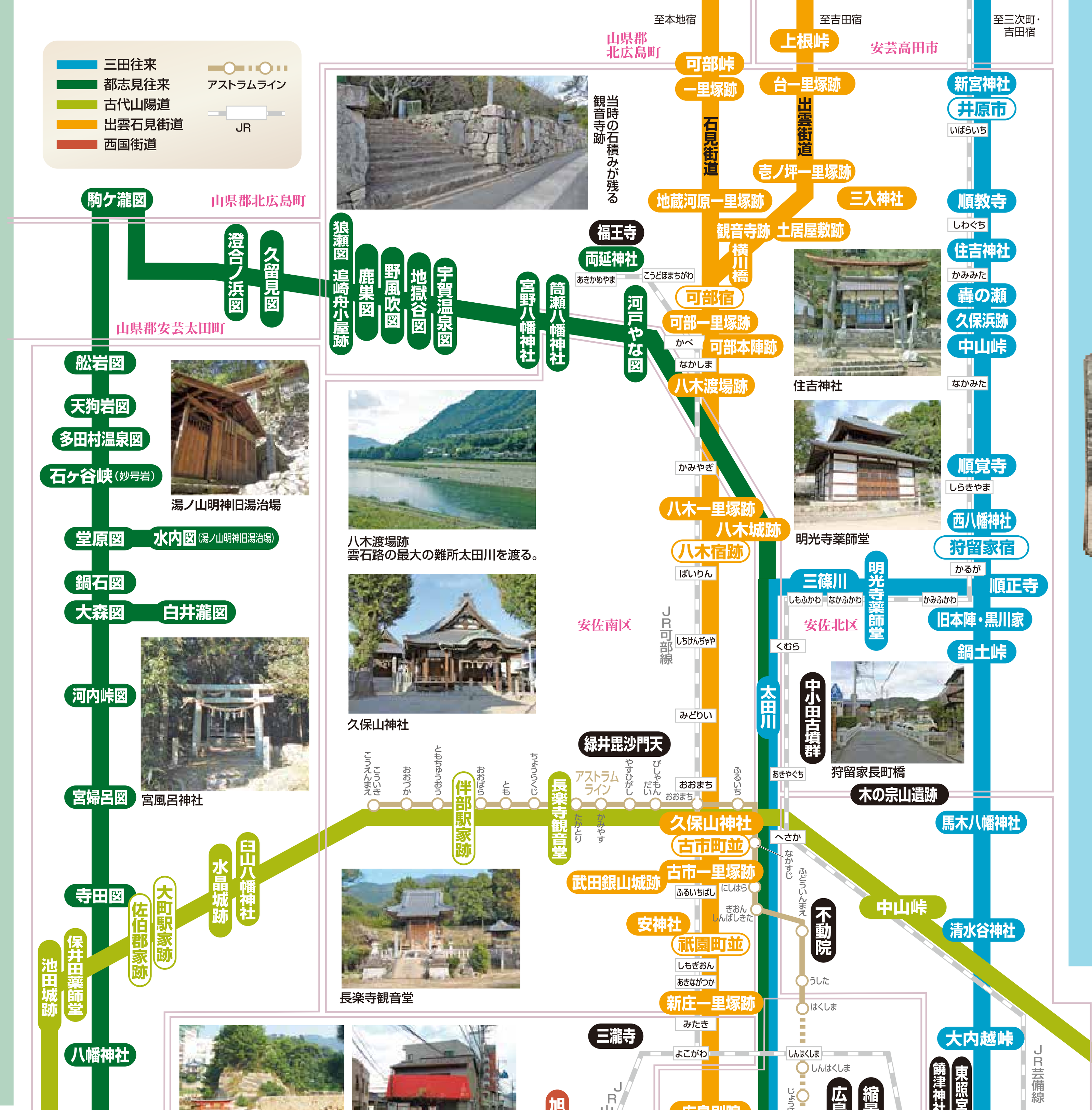
指南 散策

各区で制作した散策ガイドマップには、歴史街道の一部が含まれています。

※活動団体は「みち」をテーマとしたイベントを主催するなどの活動を行っています。

- 佐伯区　「探す 見る 八幡川ウオーキングマップ」「歩こう 探そう やはた再発見〜やはた 歴史散策地図」（佐伯区役所地域起こし推進課にて貸出 TEL082-943-9705）／活動団体:やはたがわまっぷくらぶ やはた歴史探訪くらぶ

※各区の公民館で活動する郷土史の会などの活動もあります。



古代山陽道（影面の道）

古代日本では太陽の出没方向の東西を日縦と、それに直行する地軸方向の南北を日横と呼んでいました。山稜の南斜面を影面、北斜面を背面と呼び、日縦の山陽道を影面の道と、山陰道を背面の道と呼びました。山陽道は七道中の大路として駅馬20匹が置かれ、京師＝帝都と西都大宰府を結ぶ最も重要な幹線道路でした。山陽道には30里※（約16km）ごとに駅家が置かれ、『延喜式』によると安芸国には13駅が置かれました。広島市域では荒山・安芸・伴部・大町の4駅が置かれ、安芸区方面から府中町・安川・石内川・廿日市市方面へと結ばれました。

※古代尺で1里＝約500m

大山峠（万葉歌碑）

古代山陽道から近世西国街道に至るまで、西の安芸郡と東の賀茂郡の間に、藩内の難所・大山峠があります。14世紀の今川了俊の紀行『道ゆきぶり』にも載る峠には、安芸郡唯一の刀匠・大山鍛冶の碑があります。また郡境付近に幕府巡検使を迎えるお迎え場があり、参勤交代の籠立場もありました。

旧山陽道賀茂安芸郡境の碑

大山峠の峠道

大山峠の麓に立つ万葉句碑

間宿 上瀬野一貫田宿

旧上瀬野村の一貫田は、中世の世能荘の中心で鎮守の平山神社の麓に発展しました。近世には海田市宿と西条四日市宿との中継地の間宿となり、本陣が置かれ、難所の一つ大山峠へ至っています。水力を利用した広島藩の油御用所が置かれ、明治に入ると、官営の綿糸紡績工場が、士族授産の施設として開設されました。西国街道から熊野川に沿って、熊野・矢野・呉方面と交流がもたれました。

安芸国府跡（安芸郡家跡）

平安時代初期に編纂された『倭名類従抄』には、安芸国府は安芸郡にありとされています。一説に奈良時代は国分寺のある賀茂郡内にあったといわれています。現在の田所屋敷付近に在庁官人が住みつき、国庁の地名が残っています。また安芸国総社跡や延喜式内大社の多家神社跡、※埃宮（えのみや）や道隆寺・松崎八幡宮跡などの旧跡が残り、安芸郡家も所在していました。中世以来、国府所在地として府中と呼ばれ、東へ至る山道は甲（国府）越峠を抜けていました。

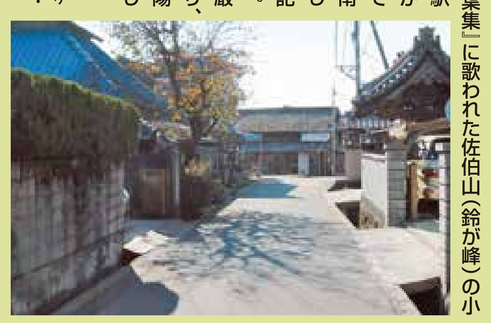
※神武天皇が東征の際に、仮宮として安芸埃宮を置いたとされます。

国庁の跡に建つ田所明神社

佐伯郡家跡（大町駅家跡）

古代に郡司の佐伯氏が、当地に佐伯郡家を置いていたことから、佐伯区八幡地区は山陽道に沿って郡の付いた地名が多く残り、かつては古保理神社の小祠がありました。から東を見ると『万葉集』に歌われた佐伯山（鈴が峰）の富士が望め、大町駅家もこの付近に置かれていたといわれています。後に安佐南区の大町説が出ましたが、『延喜式』の記載順に従っています。やがて安芸国一宮の厳島神社の神領となり、中世山城が古代山陽道沿いに多く存在します。

※郡司の所在地で、こおりのみやけ・ぐんけ・ぐうけ・こうげと呼ばれます。



正覚寺前の古代山陽道

駅家

- 種箆駅家　廿日市市下平良地区
- 濃唹駅家　廿日市市大野高畑地区
- 『万葉集』高庭駅家跡

指南 散策

各区で制作した散策ガイドマップには、歴史街道の一部が含まれています。

※活動団体は「みち」をテーマとしたイベントを主催するなどの活動を行っています。

- 安佐南区　「あさみなみ散策マップ〜相田・安ルート」「あさみなみ散策マップ〜高取・長楽寺ルート」「あさみなみ散策マップ〜伴ルート／奥畑ルート」「あさみなみ散策マップ〜大塚ルート」（安佐南区役所地域起こし推進課TEL082-831-4926）
- 安芸区　「安芸・熊野街道手作りガイドマップ」「瀬野川 お散歩マップ」「瀬野 歴史散歩マップ」（安芸区役所地域起こし推進課TEL082-821-4905）／活動団体:瀬野川流域郷土史懇話会 など
- 佐伯区　「[CD-ROM]五日市観音・五日市中央わがまち大辞典」「歩こう 探そう やはた再発見〜やはた歴史散策地図」「[ポストカード]新・西国街道」「ふるさとかんのん村の昔をたずねて」（佐伯区役所地域起こし推進課TEL082-943-9705）／活動団体:やはた歴史探訪くらぶ・やはたがわまっぷくらぶ

※各区の公民館で活動する郷土史の会などの活動もあります。

出雲石見街道（雲石路）

西国街道に沿う堺町から北に分岐し、太田川・古川沿いに延び可部宿に至ります。さらに可部から根之谷川に沿い上根峠・吉田・三次を通り、赤名越から出雲大社に向かう道と、南原川から可部峠・本地・中山から石見大森銀山に向かう道が分岐していました。幅員は7尺（2m強）で代々の藩主により整備され、萩藩では祖元就の墓参のために利用され、吉田往還とも呼ばれました。

中世遺跡の宝庫

平安末期に平家が滅びると、関東武士が守護や地頭として安芸国に配置されました。守護には甲斐国から武田氏が入り、武田銀山城を基に祇園地区を支配しました。三入荘の地頭には、武蔵国から熊谷氏が入り、高松山城に移り可部地区を支配しました。八木地区の香川氏や川の内衆と呼ばれる水軍も活躍し、街道沿いには、今なお多くの中世武士の史跡が点在しています。

古市町並

近世には高宮郡に属し、古川（旧太田川）を挟んで、中筋・古市の東西二村で成立しました。江戸時代から農民の七分方が扱苧・績苧（※こぎそ うみそ）をもって生活し、麻糸・麻縄の生産で栄えました。鎮守社の久保山神社や浄土真宗浄宗寺を基に、「麻の古市」の名は広く全国に知られました。

※苧（お・そ）は麻の古名。大麻の皮を剥ぎ、煮扱いで晒し、裂いて糸にし、麻糸や麻縄を生産していました。

近世から麻生産で賑わった町屋

祇園町並

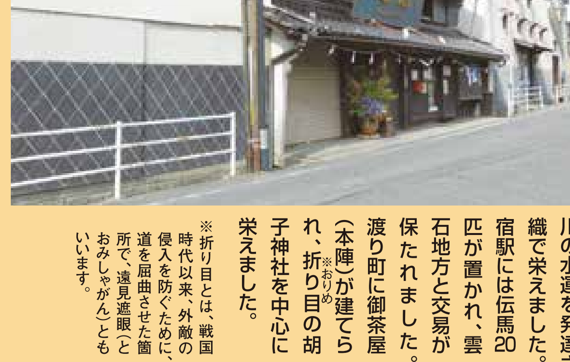
平安時代末期には厳島神社領荘園の倉敷地となり、中世に武田氏により銀山城の東麓に、新羅・熊岡・日吉の各社や仏護寺（現在の広島別院）などが建てられました。恵美須神社を中心に町屋が並び、西の裏通りは武田氏時代、東の裏通りは毛利氏時代のものです。近世には沼田郡に属し、北下安村の雲石路に沿って成立し、安神社の門前町として栄え、郡本（代官所在地）が置かれました。八木用水敷設の棟梁桑原卯之助の墓所は勝想寺境内にあります。

旧沼田郡の中心地であった町筋

可部宿

古代安芸郡は後に安北郡となり、近世には高宮郡の郡本（代官所在地）として、可部宿が成立しました。福王寺の建てられた古代の漢辨（かべ）郷は可部庄となり、武田氏が両延神社を勧請しました。可部船入堀の整備は、熊谷氏時代からの太田川や三篠川の水運を発達させ、太田川上流での和鉄生産の中継や山繭織で栄えました。宿駅には伝馬20匹が置かれ、雲石地方と交易が保たれました。渡り町に御茶屋（本陣）が建てられ、折り目（※おりめ）の胡子神社を中心に栄えました。

※折り目とは、戦国時代以来、外敵の侵入を防ぐために、道を屈曲させた箇所で、遠見遮眼（とおみしゃがん）ともいいます。



酒蔵、醤油蔵の建ち並ぶ街道筋

折り目を中心とした町屋群

指南 散策

各区で制作した散策ガイドマップには、歴史街道の一部が含まれています。

※活動団体は「みち」をテーマとしたイベントを主催するなどの活動を行っています。

- 中区　「広島城下大絵図」「広島城北大絵図」（中央公民館TEL082-221-5943）／活動団体:広島城下町案内衆
- 安佐南区　「あさみなみ散策マップ〜祇園・山本ルート」「あさみなみ散策マップ〜祇園・長束／祇園・大町ルート」「あさみなみ散策マップ〜八木ルート／八木山の端ルート」「あさみなみ散策マップ〜緑井ルート／上八木ルート」「あさみなみ散策マップ〜古市ルート」「あさみなみ散策マップ〜毘沙門ルート」（安佐南区役所地域起こし推進課 TEL082-831-4926）

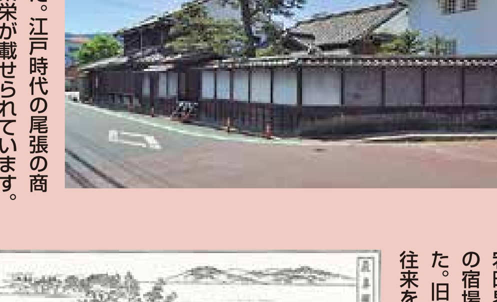
※各区の公民館で活動する郷土史の会などの活動もあります。

西国街道（近世山陽道）

江戸時代、山陽道のうち広島藩内の街道を「西国街道」と呼びました。五街道に次ぐ規模を誇り幅員は2間半（約4.5m）ありました。古代から中世まで、京都と太宰府を結ぶ唯一の大路として文化の大回廊でした。江戸開府後は脇街道となりましたが、西国を結ぶ重要な街道として宿駅や一里塚、街道松が整備されました。広島藩内の宿駅には、広島城下の東の愛宕町界隈や西の堺町界隈をはじめ、西から玖波、廿日市・海田市・西条四日市・本郷・三原・尾道があり、参勤交代や多くの交易に利用されました。

海田市宿

平安時代に瀬野川の河口部に開田庄が拓かれ、二日市を中心に発展した宿場町。室町時代の歌人・今川了俊が著わした『道ゆきぶり』に海田浦として載っています。福島正則は総鎮守の熊野神社の西に本陣の御茶屋を置き、後に海田市宿には馬15匹が置かれました。安芸郡の郡本（後の郡役所）として発展し、千葉家・三宅家などの旧家を中心に町並みができました。江戸時代の尾張の商人・菱屋平七の『筑紫紀行』にその繁栄が載せられています。



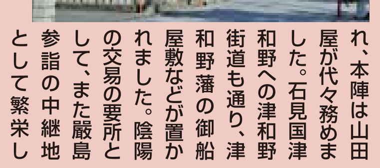
海田市を代表する商家「旧千葉家住宅」

間宿 草津宿

神功皇后の伝説で軍津浦（いくさつうら）と呼ばれ、三韓に向け軍船が集結したとされます。この軍津が地名の草津になったと言われています。中世には港が整備され、厳島合戦の際には毛利氏の船大将児玉氏が草津城に配され、草津城、海蔵寺は重要な戦略地でした。江戸時代に入ると福島正則が東の尾長村と西の草津村に大門を置きました。その後、藩主は浅野氏に代わり、一時、三次支藩の一村となりました。草津宿は広島城下と廿日市宿との中継地の間宿として繁栄しました。

廿日市宿

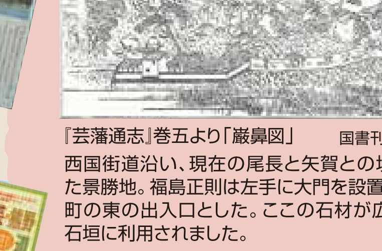
古くは廿の浦と呼ばれ、鎌倉時代に厳島神社の神主として鎌倉から藤原氏が移住しました。その頃から交通の要衝の地に、毎月廿日に定期市が立ち、廿日市の名が生まれました。西国街道の宿駅として馬15匹が置かれ、本陣は山田屋が代々務めました。石見国津和野への津和野街道も通り、津和野藩の御船屋敷などが置かれました。陰陽の交易の要所として、また厳島参詣の中継地として繁栄し続けました。



本陣跡周辺の町並み

広島城下の宿場 愛宕町界隈

京橋から猿猴橋を越え、東郊の尾長に至る愛宕町界隈は、火除けの神の愛宕神社を基に、東の宿場として繁栄し、馬60匹が設置されました。旧古川に架かるがらがら橋は、西国街道の往来を見続け、直線状に町並みが続きました。



『芸藩通志』巻五より「巌鼻図」　国書刊行会発行

西国街道沿い、現在の尾長と矢賀との境にあった景勝地。福島正則は左手に大門を設置し、城下町の東の出入口とした。ここの石材が広島城の石垣に利用されました。

広島城下の宿場 堺町界隈

本川橋（猫屋橋）から旧塚元町を抜け、西へ続く町並みが旧堺町。和泉国の堺から商家の境屋が移住し命名されました。この町は西国街道と出雲石見街道の分岐点にあたり、馬40匹が置かれ、宿場は天満橋から西へと延びました。分岐の道標となった常夜灯は今も空鞘稲生神社にあります。

常夜灯には「出雲大社道」と大きく刻まれています。

指南 散策

各区で制作した散策ガイドマップには、歴史街道の一部が含まれています。

※活動団体は「みち」をテーマとしたイベントを主催するなどの活動を行っています。

- 中区　「広島城下大絵図」「広島城北大絵図」「広島城南大絵図」「広島城東大絵図」（中央公民館TEL082-221-5943）／活動団体:広島城下町案内衆
- 東区　「二葉の里歴史の散歩道 ガイドブック（改訂版）・散策マップ」（東区役所地域起こし推進課TEL082-568-7704）／活動団体:二葉の里歴史の散歩道 ボランティアガイドの会
- 南区　「南区散策ガイド みなみ区を行く」南区全体マップ、広島駅周辺マップ 比治山周辺マップ、黄金山周辺マップ 宇品・元宇品マップ、向洋・堀越・青崎マップ 似島・金輪島マップ（南区役所地域起こし推進課TEL082-250-8935）／活動団体:南区魅力発見委員会みなみ区まち探検隊
- 西区　「草津まち歴史の散歩道」（草津公民館TEL082-271-2576）「己斐の歴史めぐり」（己斐公民館TEL082-273-1765）「こぎいで古田の歴史めぐり」（古田公民館TEL082-272-9001）「西国街道いのくち歴史の散歩道」（井口公民館TEL082-277-9258）（鈴が峰公民館TEL082-278-7599）「己斐・古江・草津・井口西国街道ふれあいマップ 歩いてみよう西（さい）発見」（西区役所地域起こし推進課TEL082-532-0927）／活動団体:草津まちづくりの会、己斐公民館で活動する己斐の歴史研究会など
- 安芸区　「海田・矢野・坂街道手作りガイドマップ」「安芸・熊野街道手作りガイドマップ」「瀬野川 お散歩マップ」「瀬野 歴史散歩マップ」（安芸区役所地域起こし推進課TEL082-821-4905）／活動団体:瀬野川流域郷土史懇話会 など
- 佐伯区　「西国街道ぶらり散策まっぷ 廿日市〜五日市〜井口」「五日市まちめぐり散策路:あまんじゃくと歩く通りみち」（佐伯区役所地域起こし推進課TEL082-943-9705）／活動団体:五日市西国街道散策倶楽部 など
- 広島市佐伯区・廿日市市・大竹市　「西国街道がつなぐ ぶらりまちあるきマップ」

※各区の公民館で活動する郷土史の会などの活動もあります。

出かけましょう! 歩けば歴史が見えてくる

私たちの住むひろしまの「みち」は、いにしえから通じ、まちの佇まいや人々の暮らしは今日まで受け継がれています。古代〜中世〜近世と経済や文化、歴史を育み今に残る「みち」は五本。「みち」に秘められた歴史絵巻をひも解きながら、自分の足でゆっくり散策してみると、面白い物語が楽しめます。いにしえの人々の歩みが見えて来るようです。さあ、出かけましょう!歩けば歴史が見えてくる!

ひろしまの文化は「みち」（街道）の歴史から

ひろしま八区ぐるっと散策「みち」めぐり ホームページ
ぐるっと散策　検索

参考文献　「古路・古道調査報告」『広島市の文化財第50集』1992年3月 広島市教育委員会・(財)広島市歴史科学教育事業団
『新修広島市史』1〜7巻　1958〜62年
『図説広島市史』1989年4月　広島市公文書館
『都志見往来日記・同諸勝図』1989年3月　広島市中央図書館

協　力　萩博物館・広島市立中央図書館・(株)国書刊行会・明光寺

公益財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課 ひろしま昔探検ネット
古路・古道歴史散歩　検索

編集協力
ひろしま歴史街道トリップ実行委員会
ひろしま歴史街道　検索
ひろしま歴史街道散策くらぶのホームページ

発　行
広島市企画総務局 コミュニティ再生課
〒730-8586 広島市中区国泰寺町一丁目6-34
TEL:082-504-2125　FAX:082-504-2029
Eメール community@city.hiroshima.lg.jp

このパンフレットにある各街道「みち」及び解説は、現存する各種資料を参考に、現地踏査等を実施して、「ひろしま歴史街道トリップ実行委員会」が作成したものです。かつての街道の面影は思わぬところで見つかることもあります。「みち」の面影を正確にたどるためにも、ご意見があればお寄せいただければと思います。なお、解説文中の写真及び簡易ルート図中の写真は初版時のものを使用しています。（一部の写真は、第5版発行時に更新しています。）

平成18年（2006年）12月　初版　10,000部
平成20年（2008年）8月　改訂版　8,000部
平成23年（2011年）3月　第3版　8,000部
平成27年（2015年）3月　第4版　10,000部
令和2年（2020年）3月　第5版　10,000部

左図（A）へ続く↑

ひろしま八区 三回往来 古代山陽道 西国街道 出雲石見街道 都志見往来 ぐるっと散策「みち」めぐり

歩けば歴史が見えてくる

▲「中国行程記」より「広島城下」　萩博物館蔵
萩藩の図師・有馬喜惣太が描いた長大な街道絵図。古跡や景観とともに各地の史実伝承を物語る解説文も随所に載せられており、18世紀の西国街道の様子がよくわかります。

宿場（しゅくば）

とは、江戸時代に五街道をはじめ脇街道において、駅伝の事務を扱うために設定された町場のこと。規定の人馬を常設し不足の時には助郷を徴発しました。公用人馬の継ぎ立てや公式の宿泊に本陣・広島藩では御茶屋・脇本陣・問屋場が、他に一般の旅・籠・茶屋・店舗などがありました。

草津宿　「小泉酒造」には通称「大門」と呼ばれる関所の門の金具が伝わっています。

上瀬野一貫田宿　海田市と西条四日市の間宿として栄えました。

一里塚（いちりづか）

とは、街道の1里約4kmごとの両側に設けられた塚のことで、多くはその上に榎を植えて旅人の目印にしました。1604年（慶長9年）に江戸日本橋を起点として、東海道、中山道、北陸道に設置されたのが始まりで、西国街道にも江戸初期の寛永年間にすべてに設けられました。

地蔵河原一里塚跡

廿日市街道松

砂走出迎え松

街道松（かいどうまつ）

とは、街道の景観に変化をつけるため両側に植えられた松並木。戦国時代には脇街道に松並木が一条に延び、江戸時代には五街道を始め西国街道でも植えられています。西国街道では約3間（5m強）ごとに植えられましたが、現在は廿日市街道松の1本、佐伯区楽々園の2本、安芸区砂走の出迎え松の6本の計9本が残るのみとなりました。

渡場（わたしば）

とは、渡し銭（賃）をとり、人馬・荷物などを船で対岸に渡す所。番小屋があり、渡し守が常駐しました。渡しのある地域は船運の交易地として栄えました。「八木渡場」は雲石路の難所で、殆どが徒歩渡しで、両岸の番所に渡賃を払えば、人夫により通行できました。

凡例

- 西国街道（近世山陽道）
- 出雲石見街道（雲石路）
- 古代山陽道（影響の道）
- 三田往来（三瀦川沿道）
- 都志見往来（岡崎山絵巻）

※破線は想定路

縮尺　1：75,000

1000m　0　1000　2000　3000

1里（古代尺で約500m）

1里（尺貫法で約4000m）

この地図は、国土地理院発行の数値地図50000を加工したものである。
（刊行年が平成3年から平成20年までの9枚の地図を合成）

市政資料登録番号　広C2−2019−442

出雲石見街道の一里塚跡

新庄一里塚跡
○広島城下から北1里
安佐南区長楽三丁目の新庄橋北詰にあります。かつては新庄村本郷にありましたが、太田川放水路の拡張工事により現在の場所に移されました。

古市一里塚跡
○広島城下から北2里
安佐南区古市二丁目二丁目の境にあり、現在は水準点となっています。

八木一里塚跡
○広島城下から北3里
安佐南区八木四丁目の八木峠にあります。

可部一里塚跡
○広島城下から北4里
安佐北区可部二丁目の船入堀にあり、可部宿の入口となっています。

壱ノ坪一里塚跡（出雲路）
○広島城下から北5里
安佐北区三入一丁目の馬洗川の傍らにあり、東側切の南西にあります。

台一里塚跡（出雲路）
○広島城下から北6里
安佐北区三入一丁目の馬洗川の傍らにあり、街道の開け上横川に至ります。

地蔵河原一里塚跡（石見路）
○広島城下から北5里
安佐北区可部九丁目にあり、史跡「可部一里塚跡」は地蔵堂が建てられています。

可部峠一里塚跡（石見路）
○広島城下から北6里
安佐北区可部町南原、石見街道の難所・可部峠にあります。北へ下ると本地域に至ります。

西国街道の一里塚跡

長尾一里塚跡
○広島城下から東6里
東広島市八本松　宗吉の国道2号沿いにあります。離建四本すつあわせて八本の松は、この地の銘柄です。跡地には石碑があります。

凉木一里塚跡（すずのき）
○広島城下から東5里
安芸区上瀬野の山陽線下にあり、石碑が建っています。

落合一里塚跡
○広島城下から東4里
安芸区瀬野一丁目の海岸上にあり、石碑が建っています。

鳥上一里塚跡
○広島城下から東3里
安芸区中野一丁目の市街地にあり、石碑が建っています。

海田市一里塚跡
○広島城下から東2里
安芸区海田市新町の市街地にあり、石碑が建っています。

矢賀一里塚跡
○広島城下から東1里
東区矢賀新町三丁目の県道84号沿いにあります。

高須一里塚跡
○広島城下から西1里
西区高須二丁目と三丁目の境の住宅地にあります。

龍神山一里塚跡
○広島城下から西2里
西区井口鏡が台一丁目の鈴が台第三公園付近に石碑が建っています。

岩戸山一里塚跡
○広島城下から西3里
廿日市市佐方本郷の岩戸山の麓に石碑があります。